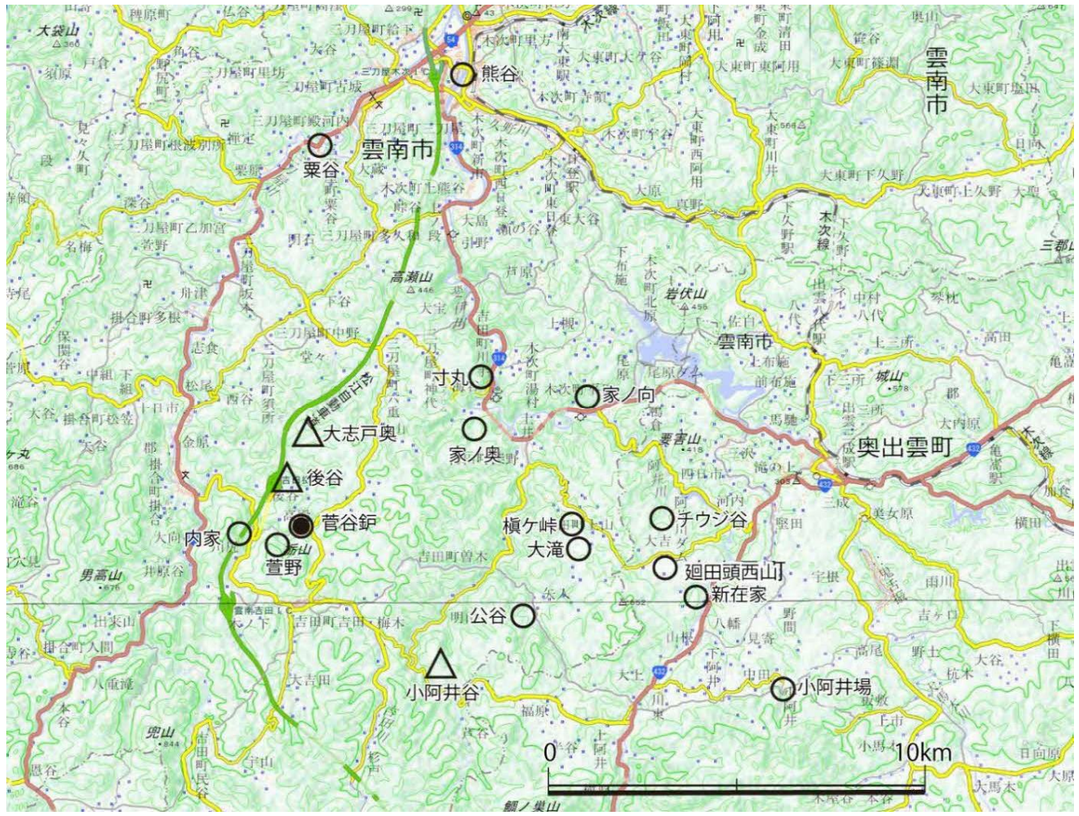
2026.11.7

かやのがんな
萱野鉄穴砂鉄選鉱場跡発掘調査現地説明会資料

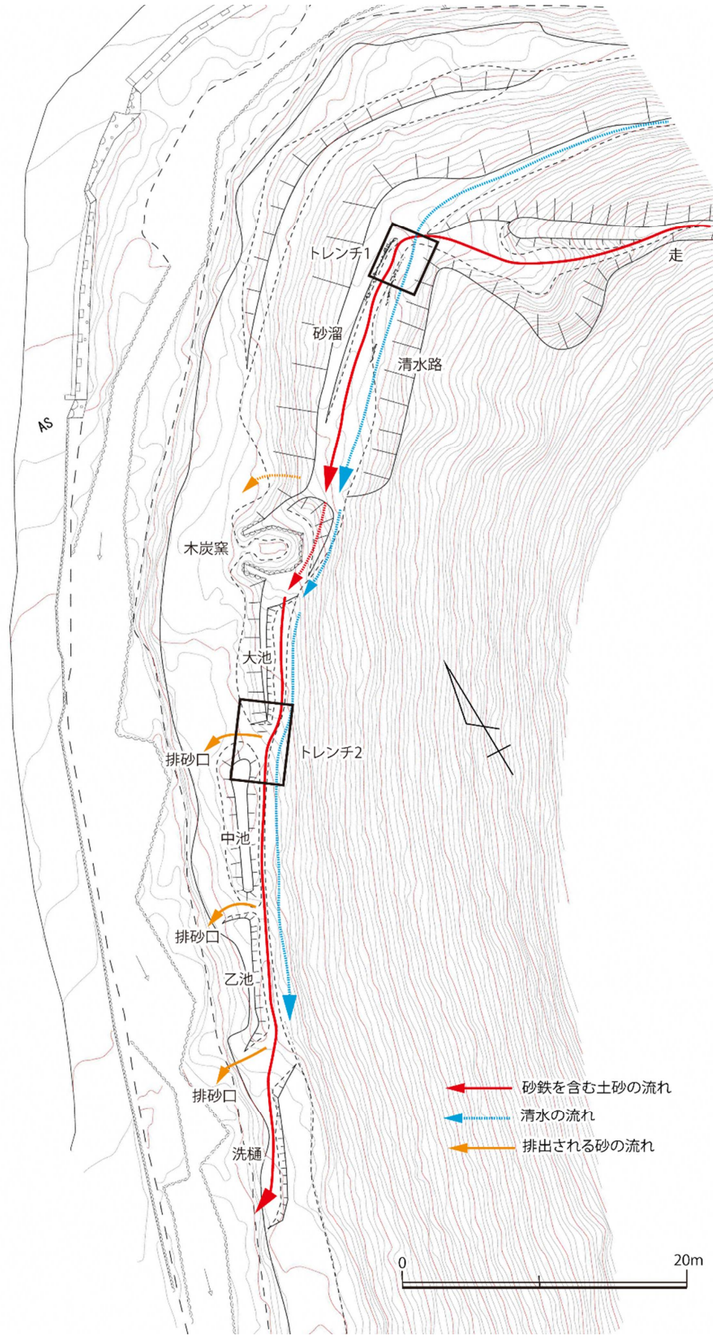
雲南市教育委員会

萱谷たたらは、12ヶ所の鉄穴（砂鉄採取場）から運び込まれた砂鉄を原料に操業されました。萱野鉄穴は、萱谷たたらから300mほどと近くにあり、その主要な砂鉄の供給地でした。文化13年（1816）から採取が始まり、年平均146tあまりの砂鉄を産出したことが記録されています。

雲南市教育委員会では、萱谷たたらに砂鉄を供給した萱野鉄穴砂鉄選鉱場跡の実態を明らかにするために発掘調査を行いました。調査の結果、砂鉄選鉱場が2ヶ所あったこと、下流側の選鉱場跡2は全長90mと大規模であったことなどが明らかになりました。

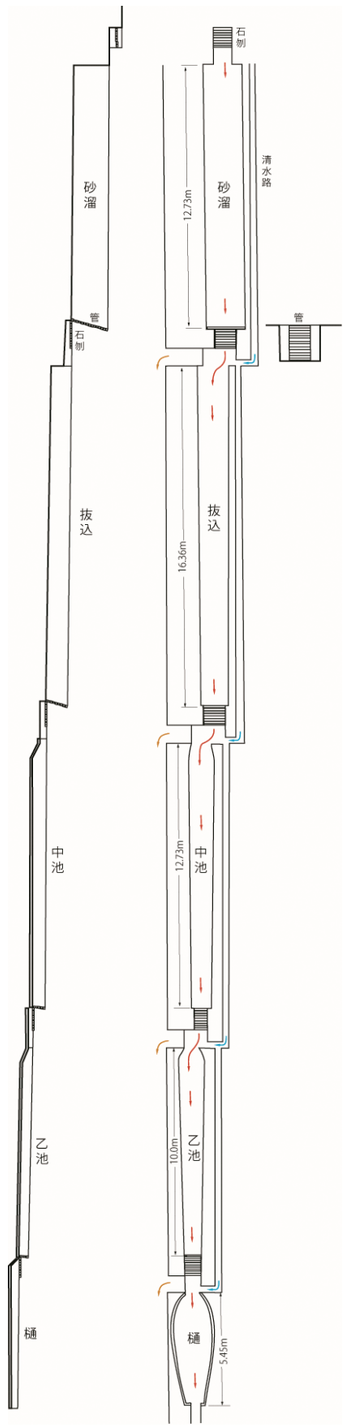


菅谷たたらの砂鉄・木炭供給地：明治16年（1883）　〇砂鉄　△木炭



萱野鉄穴砂鉄選鉱場跡2

明治31年（1898）の吉田村付近砂鉄選鉱場では、1日に砂鉄



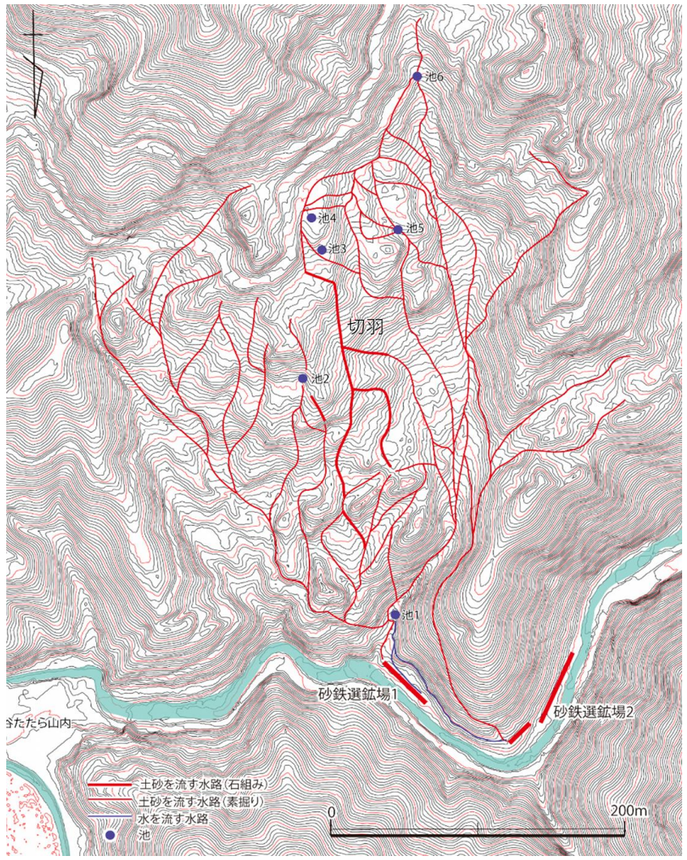
吉田村付近砂鉄選鉱場

1. 萱野鉄穴の全体像

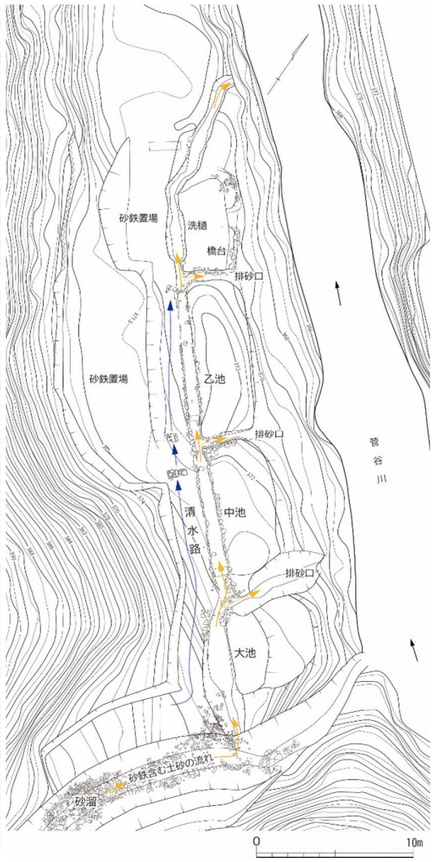
たたら製鉄の原料となる砂鉄は、山や川で採取されました。山を掘削して、土砂に含まれる砂鉄を採取したところは鉄穴、その作業は鉄穴流しと呼ばれます。

鉄穴は、水源から水を巧みに引き込み、その力を利用して山を掘り崩す大規模な鉱山です。砂鉄を含んだ花崗岩の風化土を掘削した場所は、切羽といいます。萱野鉄穴の切羽は栃山の北斜面にひろがっており、山が掘り崩された跡が現在もそのまま残っています。地形図をみると、等高線が大きく乱れており、その規模の大きさがわかります。切羽で掘り崩された花崗岩の風化土は、走と呼ばれる水路によって、砂鉄選鉱場に導かれます。

砂鉄選鉱場は、平成26年度に調査した選鉱場1と、今回の調査を行った選鉱場2があります。選鉱場2は、選鉱場1の下流70mのところにあり、砂鉄の選鉱作業は2ヶ所で進められていたことが明らかになりました。



萱野鉄穴の全体像



萱野鉄穴砂鉄選鉱場跡1

2. 砂鉄選鉱場

調査を行った砂鉄選鉱場2は、全長90mの規模があり、上流から砂溜・大池・乙池・中池・樋よりなります。砂溜と大池の間には木炭窯（近代）が築かれており、現状は分断されていますが、本来は一連のものであったと考えられます。

砂溜は石組みで、長さ20m・幅1.4m・深さは約1mです。走で導かれる砂鉄を含む土砂を最初に入れるところで、大きく深いのが特徴です。

大池と中池は低い石組みをもち、前者は幅1m、後者は幅1.3m、深さはともに30㎝です。両者は、直線的には並んでおらず、ややずれた位置に配置されており、その間に砂を川に排出する排砂口があったと考えられます。

砂鉄の選鉱作業は、砂鉄と砂の比重の違いを利用して行われました。各池の間には「管」という木棒を積んだ仕切りがあり、管を超える砂混じりの流水は排砂溝より排出されます。中に溜まった土砂は比重の重たい砂鉄が比較的多く、これを次の池に移すには、清水路より水を入れて管を外しました。これを上流から順に繰り返すことで砂鉄の含有率が高められたのです。



砂溜



大池-中池間